

ANAホールディングス株式会社 説明会

2017年3月期 第2四半期 決算

代表取締役社長
片野坂 真哉

取締役 執行役員
平子 裕志

2016年10月31日



目次

【第1部】

・2016年度 第2四半期決算(概要)

2016年度 第2四半期決算	P. 4
2016年度 通期業績予想	P. 5
航空事業の状況	P. 6
経営戦略の進捗	P. 7-8

【第2部】

・2016年度 第2四半期決算(詳細)

業績ハイライト	P. 10
連結決算概要	
経営成績	P. 11
財政状態	P. 12
キャッシュフロー	P. 13
セグメント別実績	P. 14
航空事業	
収入・費用	P. 15
営業利益増減要因	P. 16
国内旅客事業	P. 17-18
国際旅客事業	P. 19-22
国内貨物事業	P. 23
国際貨物事業	P. 24-26
LCC事業	P. 27
航空事業以外のセグメント	P. 28

・2016年度 業績予想(詳細)

2016年度 通期業績予想	
連結業績予想	P. 30
セグメント別 業績予想	P. 31
航空事業 収入・費用予想	P. 32
計画前提(旅客事業)	P. 33
計画前提(貨物事業)	P. 34
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 35
運用航空機数	P. 36
国際旅客 方面別実績(構成比)	P. 37
国際貨物 方面別実績(構成比)	P. 38

今年度より、貨物事業における代理店向け「国際貨物販売手数料」を廃止したことから、収入と費用をネットしています。

ディスクロージャー
2016年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

【第1部】

・ 2016年度 第2四半期決算(概要)



2016年度 第2四半期決算

上期で過去最高益を達成、営業利益率は10パーセントを超過

2016年度 第2四半期累計 連結決算

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	8,849	▲262	▲2.9%
航空事業	7,691	▲189	▲2.4%
営業利益	895	+27	+3.2%
航空事業	847	+36	+4.4%
営業利益率	10.1%	+0.6%	—
経常利益	834	+4	+0.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	574	+34	+6.4%
EBITDA	1,579	+40	+2.6%

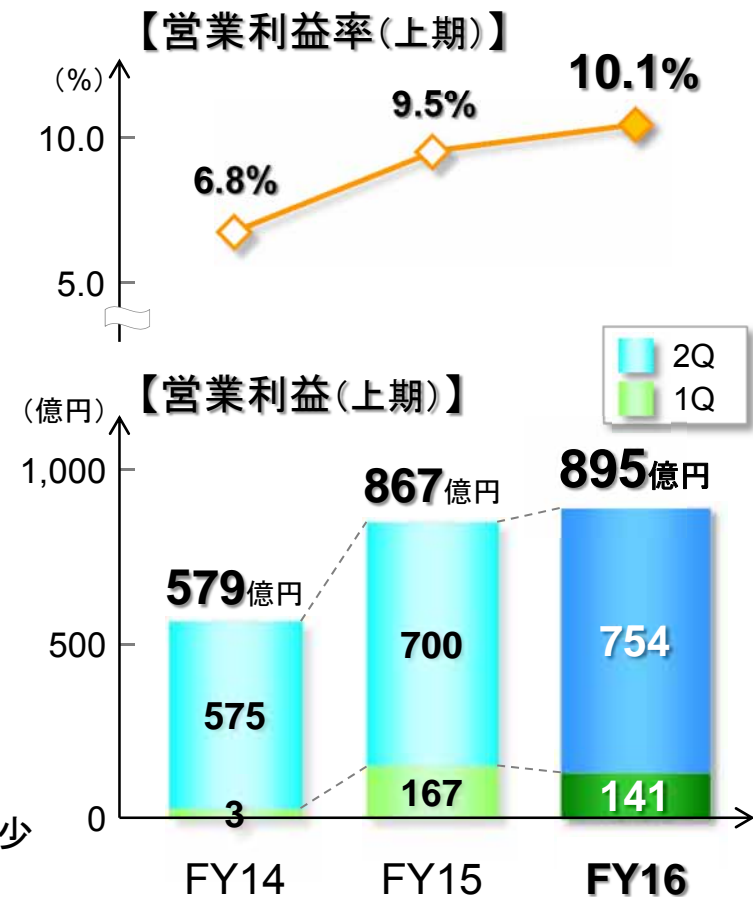
➤ 国際旅客事業が堅調に推移

- 燃油サーチャージ収入の減少・円高により、売上高は前年から減少

➤ 燃油費を中心に費用が減少(原油市況の下落・円高)

- 燃油・為替ヘッジを通して利益計画を着実にコントロール

第2四半期 累計(連結)の推移



2016年度 通期業績予想

経営環境の変化に伴い前提条件を修正、利益・配当については当初計画から変更なし

2016年度 通期 連結業績予想の修正

(億円)	通期	当初差 ('16.4.28開示)
売上高	17,400	▲700
営業費用	15,950	▲700
営業利益	1,450	—
営業利益率	8.3%	+0.3%
経常利益	1,300	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	800	—
1株あたり配当	6円	—

【主な修正ポイント】

- ① 路線計画の見直し
- ② 需要見通しの精査
- ③ 為替市況の前提変更
(¥115/\$→¥100/\$)

利益計画・配当計画
変更なし

航空事業の状況

利益計画の達成に向けてネットワークとフリート計画を柔軟に変更

	上期の状況	下期の対応
国際旅客	<p>B787の積極投入、ネットワーク拡充による競合他社との差別化推進</p> <p>1) 成田－武漢 就航(4月) 2) 成田－ポンペン 就航(9月)</p> <p>日本発: 堅調な業務渡航需要、欧州テロによる低調なレジャー需要 海外発: 着実に増加する訪日・三国間需要</p>	<p>下期の対応</p> <p>1) 羽田－ニューヨーク/シカゴ/クアラルンプール 就航(10月) 2) 成田－ホーチミン 増便(10月) 3) 成田－メキシコシティ 就航予定(2月)</p>
国内旅客	<p>需給適合の推進による安定した収益基盤の確立</p> <p>1) 小型機材の活用(B737-800) 熊本地震による影響は収束へ</p>	<p>1) B787エンジン部品交換に応じた稼働機材の一部見直し</p>
国際貨物	<p>1) 旅客機による生産量拡大</p> <p>市場全体の供給拡大に対し、緩やかな需要の回復ペース</p>	<p>フレイター稼働の抑制による採算性改善</p> <p>1) ネットワーク改廃による事業規模の修正</p>
LCC (バニラエア)	<p>台北の拠点化を視野にLCC市場でのプレゼンス向上を追求</p>	<p>1) 就航路線の更なる拡大</p> <p>一部の国際線におけるLCC間の競争激化</p>

経営戦略の進捗①

今後の成長事業領域に先行着手、機動的な資金調達を実施

事業

航空事業

フルサービスキャリア



- ・ANA国際線ネットワークの拡大
- ・ベトナム航空とのコードシェア開始(10月)

LCC



- ・以遠権行使を含めた新規路線の積極展開

航空関連事業

- ・ANAブランド活用の新マーケティング会社設立(10月)

ノンエア事業

商社事業

- ・グループ間の連携による越境Eコマースの推進

- ・空港型免税店の運営会社設立(6月)

財務

信用格付の向上(2016年3月)

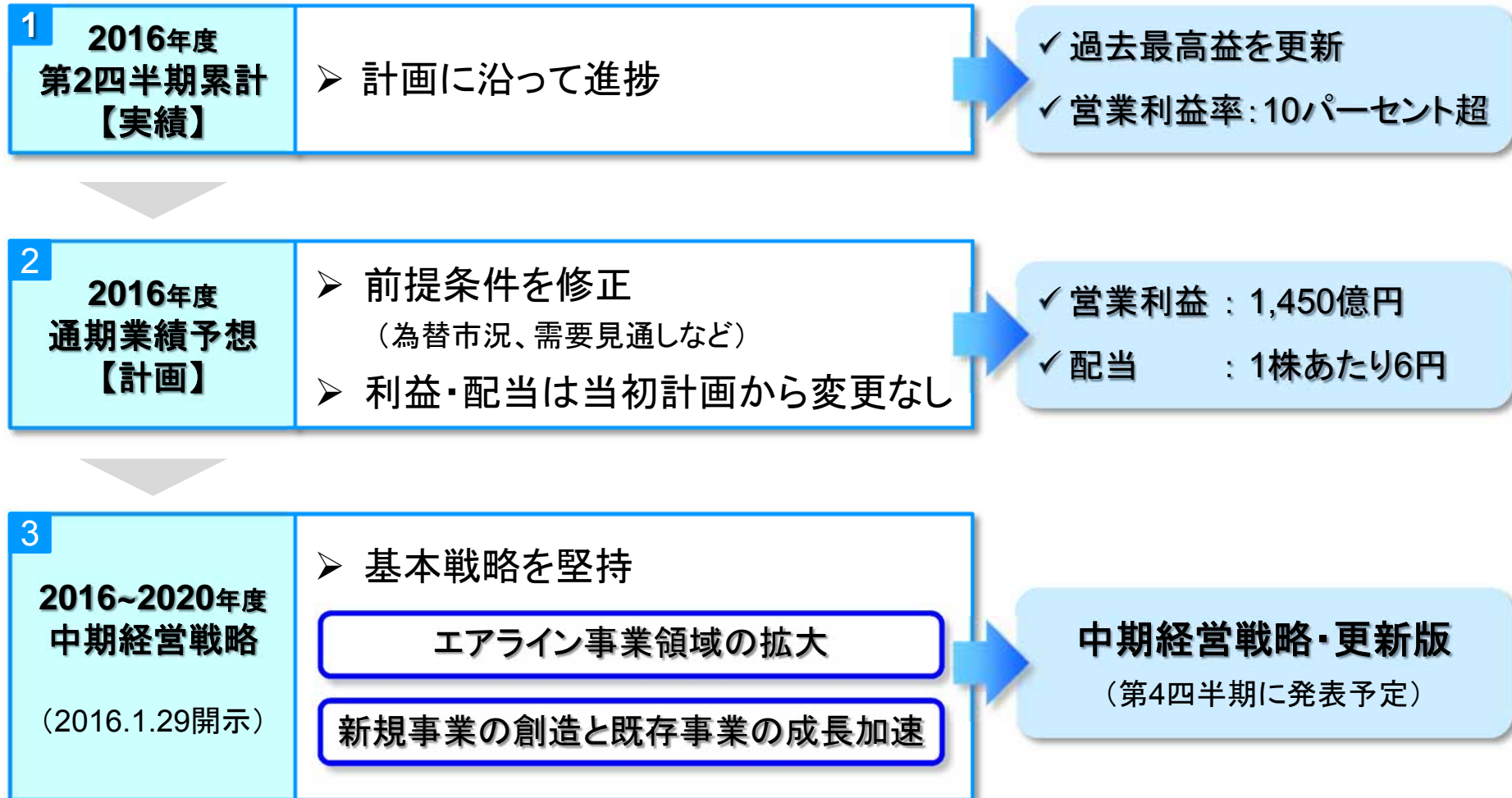
有利な条件による社債の発行

→ 機関投資家向け社債(6月): 発行額 200億円(年限 20年)

→ 個人投資家向け社債(9月): 発行額 200億円(年限 4年)

経営戦略の進捗②

今期業績は計画並みに推移、環境変化を考慮した上で中期経営戦略を更新



【第2部】

・ 2016年度 第2四半期決算(詳細)



業績ハイライト

当年度と前年度各四半期の業績比較

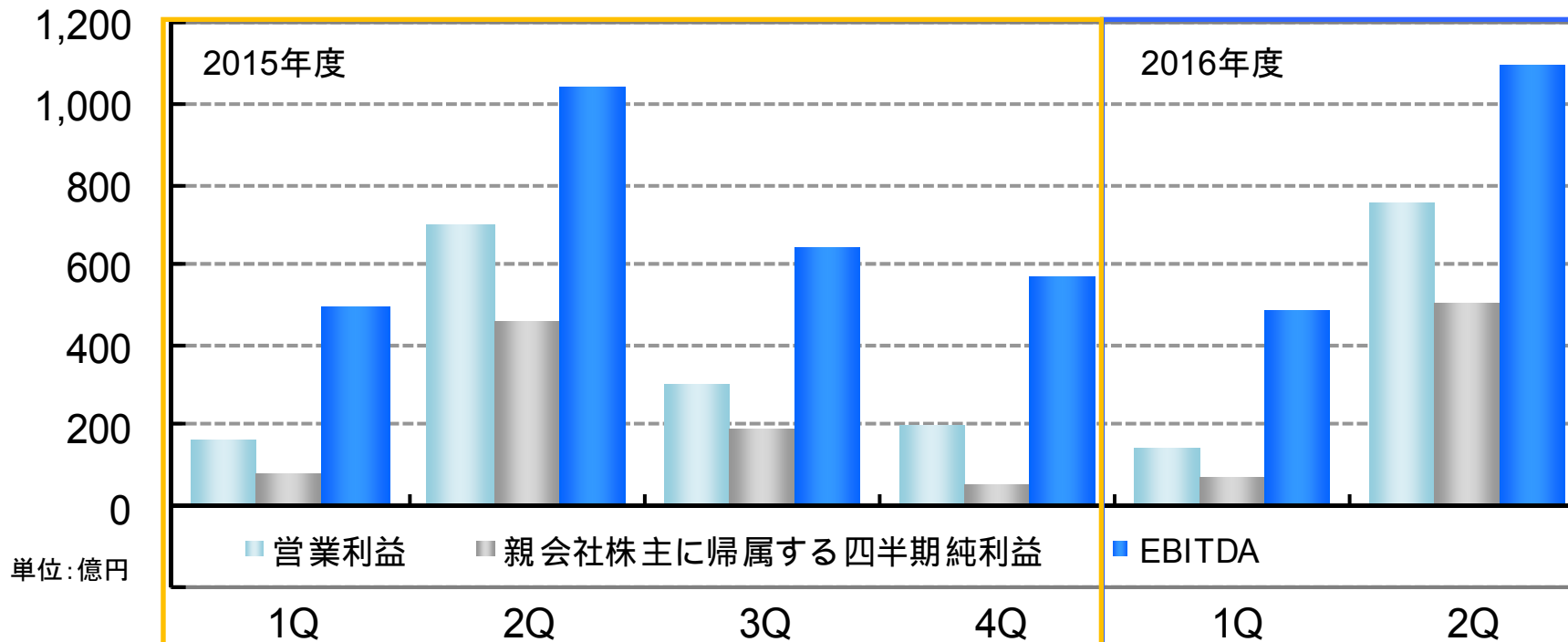
前年同期から増益を達成

【第2四半期 累計(連結)】

- 営業利益 : 895億円 (前年同期比 + 27億円)
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益 : 574億円 (同 + 34億円)
- EBITDA : 1,579億円 (同 + 40億円)

【第2四半期(7-9月期)(連結)】

- 営業利益 : 754億円
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益 : 507億円
- EBITDA : 1,097億円



連結決算概要

経営成績

単位:億円

	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期	前年差
売上高	9,112	8,849	△262	4,805	△167
営業費用	8,244	7,954	△290	4,051	△221
営業利益	867	895	+27	754	+53
営業利益率(%)	9.5	10.1	+0.6	15.7	+1.6
営業外損益	△38	△61	△22	△26	+3
経常利益	829	834	+4	728	+57
特別損益	0	1	+0	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	539	574	+34	507	+51
当期純利益	541	576	+34	509	+51
その他包括利益	△224	△125	+98	42	+475
包括利益	317	451	+133	552	+526

連結決算概要

財政状態

単位:億円

	FY2015 期末	FY2016 第2四半期末	前年度 期末差
総資産	22,288	22,528	+240
自己資本	7,898	8,183	+284
自己資本比率(%)	35.4	36.3	+0.9
有利子負債残高	7,038	7,385	+346
D/Eレシオ(倍)*	0.9	0.9	+0.0
純有利子負債残高 **	4,262	4,521	+259

* オフバランスリース債務額 563億円(前年度期末 690億円)を含むD/Eレシオは1.0倍(前年度期末1.0倍)

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

連結決算概要

キャッシュフロー	単位: 億円		
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	1,711	1,137	△573
投資キャッシュフロー	△ 1,230	△ 1,153	+76
財務キャッシュフロー	△ 564	145	+709
現金及び現金同等物の増減額	△ 80	84	+165
現金及び現金同等物の期首残高	2,089	2,651	} +84
現金及び現金同等物の期末残高	2,008	2,735	
減価償却費	671	683	+12
設備投資額(固定資産のみ)	1,272	1,150	+121
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	1,068	△11	△1,080
EBITDA(営業利益+減価償却費)	1,538	1,579	+40
EBITDAマージン(%)	16.9	17.8	+1.0

連結決算概要

セグメント別実績

単位:億円

	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期	前年差	
売上高	航空事業	7,880	7,691	△189	4,182	△126
	航空関連事業	1,144	1,277	+132	664	+97
	旅行事業	884	824	△60	483	△38
	商社事業	715	689	△26	345	△18
	報告セグメント計	10,626	10,482	△143	5,675	△85
	その他	161	166	+5	83	+1
	調整額	△1,675	△1,799	△123	△952	△83
	合計(連結)	9,112	8,849	△262	4,805	△167
営業利益	航空事業	811	847	+36	721	+62
	航空関連事業	42	53	+10	28	+5
	旅行事業	28	20	△8	13	△8
	商社事業	30	26	△4	15	△0
	報告セグメント計	913	947	+34	780	+58
	その他	6	7	+0	3	+0
	調整額	△52	△59	△7	△28	△4
	合計(連結)	867	895	+27	754	+53

航空事業

収入・費用

単位: 億円

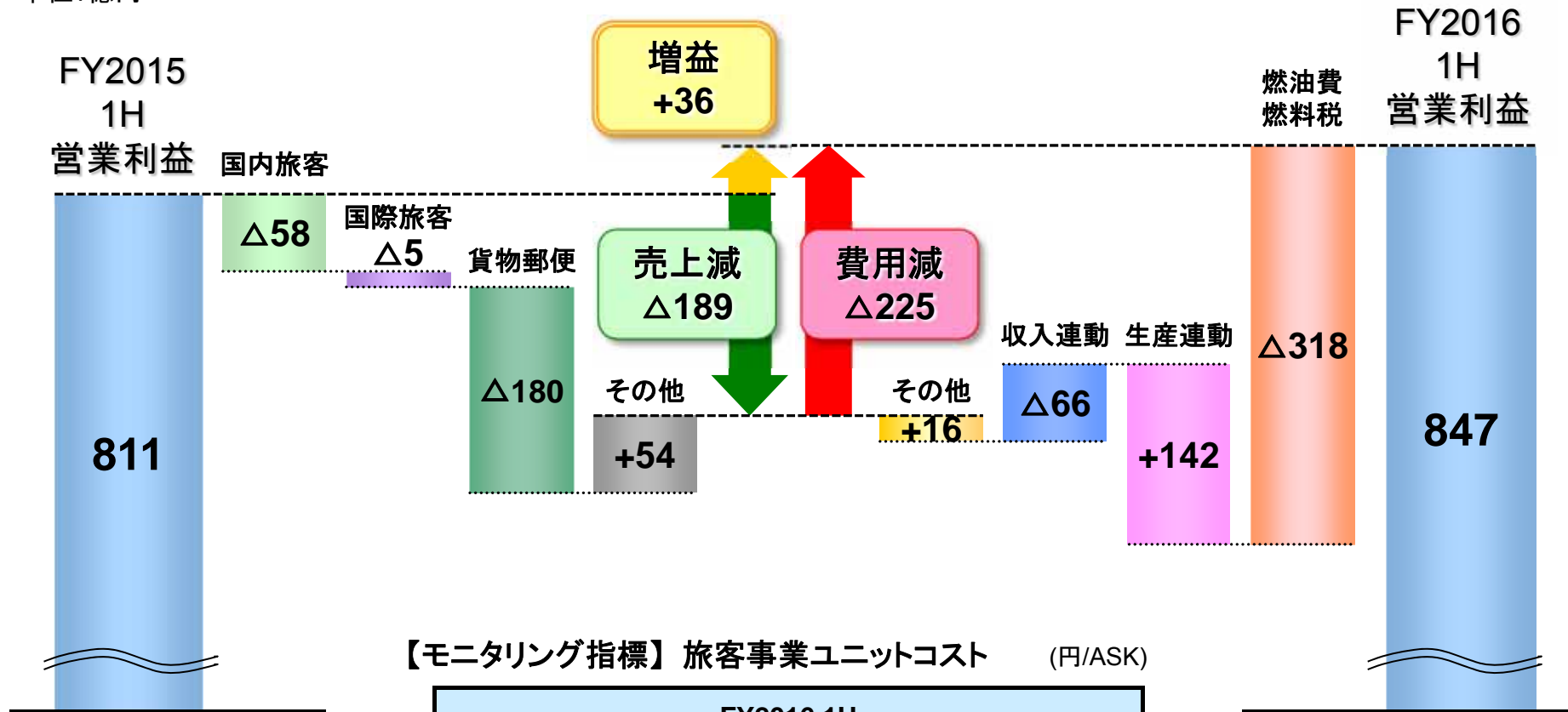
		FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期	前年差
売上高	国内線旅客	3,532	3,474	△58	1,969	△39
	国際線旅客	2,596	2,591	△5	1,358	△45
	貨物郵便	789	608	△180	311	△90
	その他	961	1,016	+54	544	+49
	合計	7,880	7,691	△189	4,182	△126
営業費用	燃油費・燃料税	1,680	1,362	△318	693	△187
	空港使用料	585	571	△13	293	△10
	航空機材賃借費	462	495	+33	245	+10
	減価償却費	638	650	+12	326	△0
	整備部品・外注費	501	514	+12	268	+0
	人件費	871	916	+45	465	+13
	販売費	528	450	△77	220	△41
	外部委託費	916	987	+70	500	+27
	その他	883	893	+9	447	+0
	合計	7,068	6,843	△225	3,461	△188
営業利益	811	847	+36	721	+62	
EBITDA(営業利益+減価償却費)		1,450	1,498	+48	1,048	+61
EBITDAマージン(%)		18.4	19.5	+1.1	25.1	+2.2

航空事業

営業利益増減要因

今期から代理店向け「国際貨物販売手数料」を廃止したことにより、収入と費用をネットしています。

単位: 億円



【モニタリング指標】 旅客事業ユニットコスト (円/ASK)

FY2016 1H		
計画	実績	実績(為替補正)
8.9	8.8	8.9

為替レート(米ドル) 計画: ¥115、実績: ¥105.2 バニラエアを除く

航空事業

国内旅客事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ(百万)	30,307	30,225	△0.3	15,831	△0.1
旅客キロ(百万)	19,433	19,526	+0.5	10,734	+1.4
旅客数(千人)	21,551	21,520	△0.1	11,730	+0.8
座席利用率(%)	64.1	64.6	+0.5*	67.8	+1.0*
旅客収入(億円)	3,532	3,474	△1.7	1,969	△2.0
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	11.7	11.5	△1.4	12.4	△1.9
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	18.2	17.8	△2.1	18.3	△3.4
単価(円) (旅客収入/旅客数)	16,393	16,146	△1.5	16,787	△2.7

* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

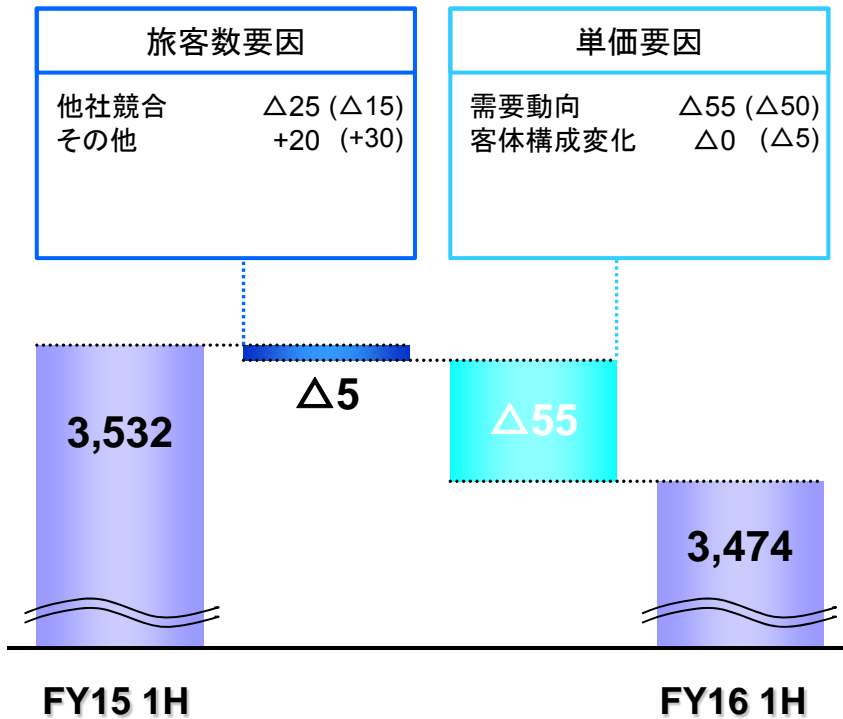
航空事業

国内旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第2四半期累計 収入増減要因

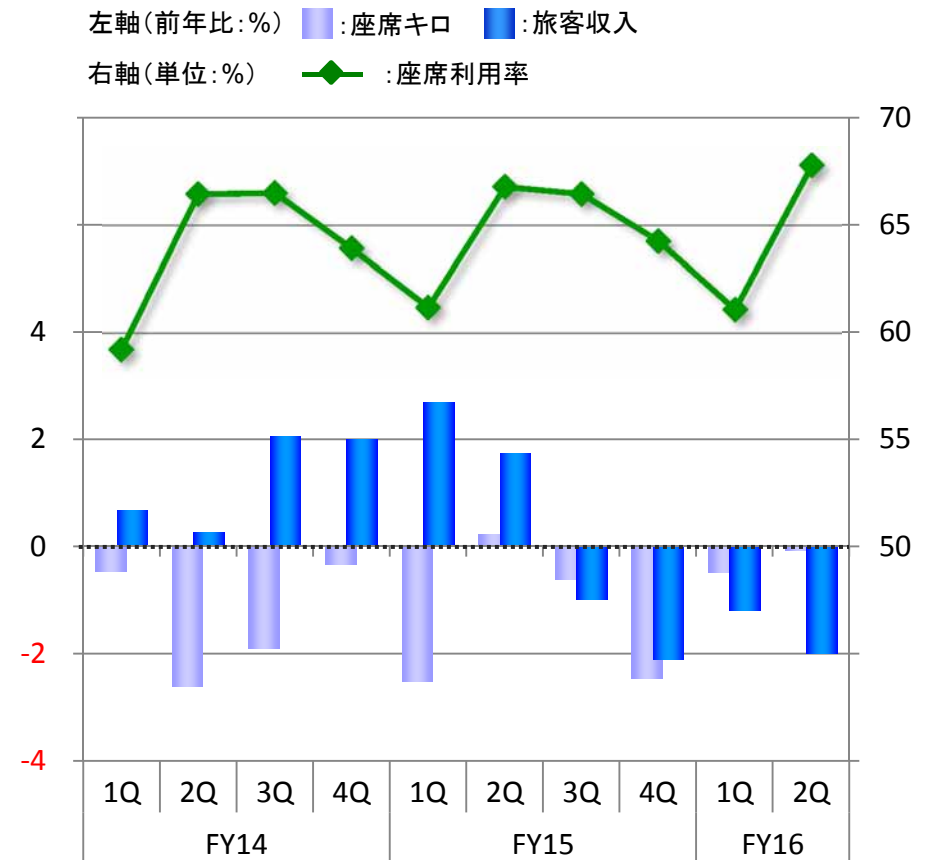
✓ プロモーション運賃を積極的に展開、単価は前年割れ



(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

単位: 億円

四半期別 座席キロ・収入・座席利用率推移



航空事業

国際旅客事業(実績)	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年比(%)	FY2016 第2四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	26,333	29,458	+11.9	14,845	+8.1
旅客キロ(百万)	19,984	22,309	+11.6	11,646	+7.9
旅客数(千人)	4,062	4,479	+10.3	2,348	+9.1
座席利用率(%)	75.9	75.7	△0.2*	78.4	△0.1*
旅客収入(億円)	2,596	2,591	△0.2	1,358	△3.2
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	9.9	8.8	△10.8	9.1	△10.5
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	13.0	11.6	△10.6	11.7	△10.3
単価(円) (旅客収入/旅客数)	63,920	57,854	△9.5	57,841	△11.3

* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

航空事業

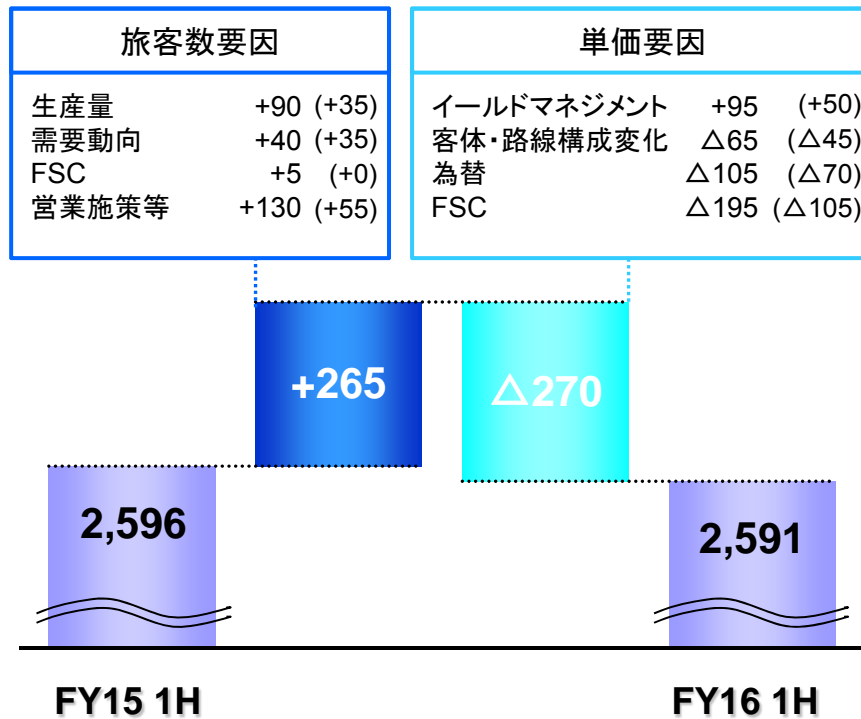
国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第2四半期累計 収入増減要因

四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

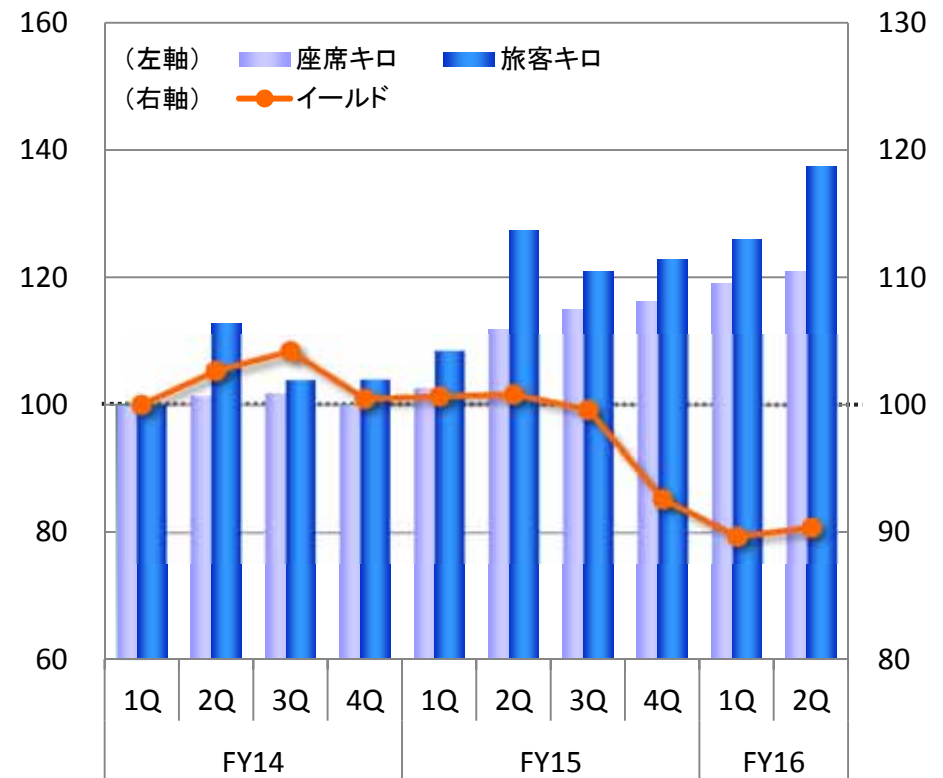
✓市況要因で単価が下落する中、前年並みの収入を確保



(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

単位: 億円

(指数: FY14 1Q=100)



航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

ビジネスクラス 輸送実績・構成比推移

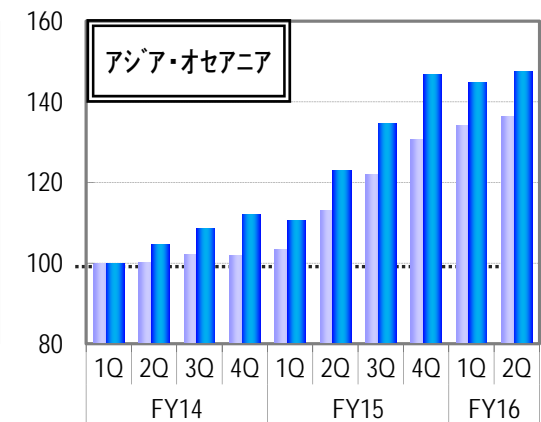
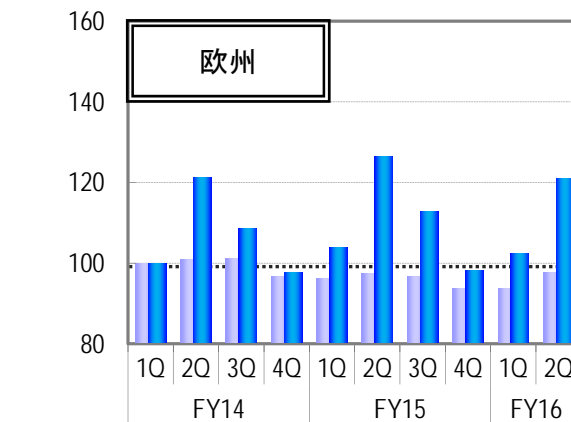
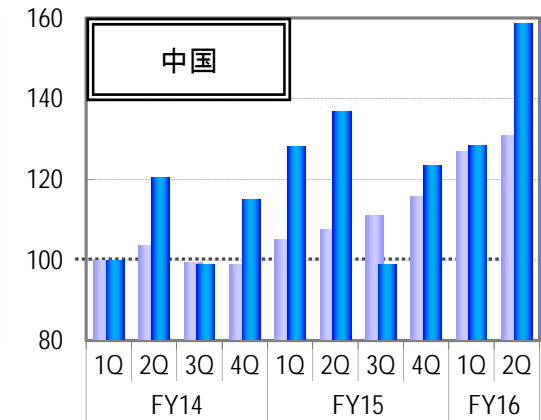
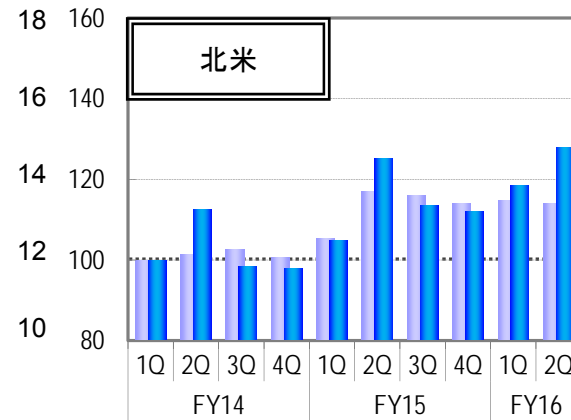
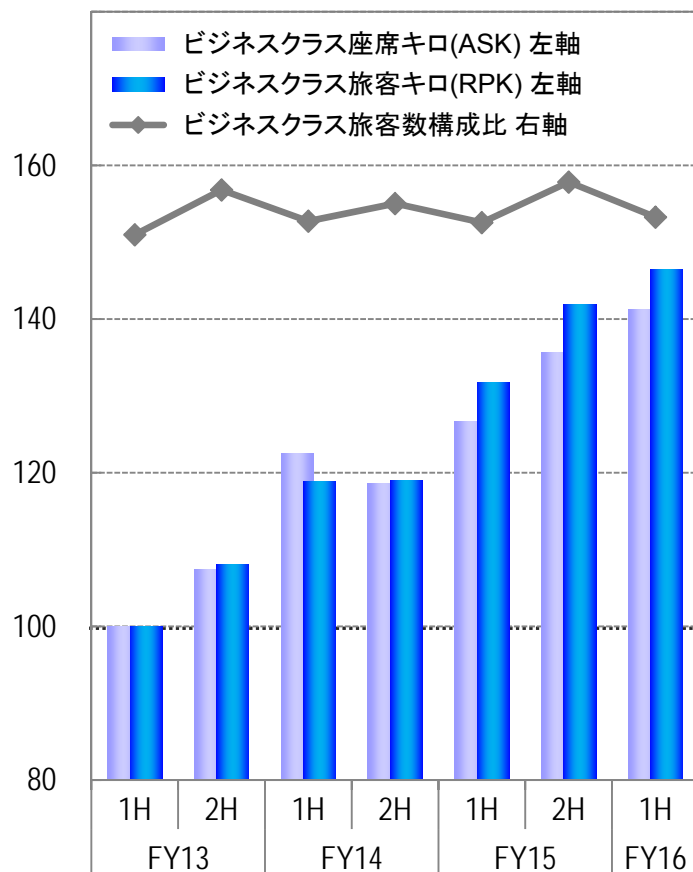
(指数 FY13 1H=100)

構成比(%)

(指数 FY14 1Q=100)

■ : 座席キロ

■ : 旅客キロ



航空事業

国際旅客事業(事業動向)

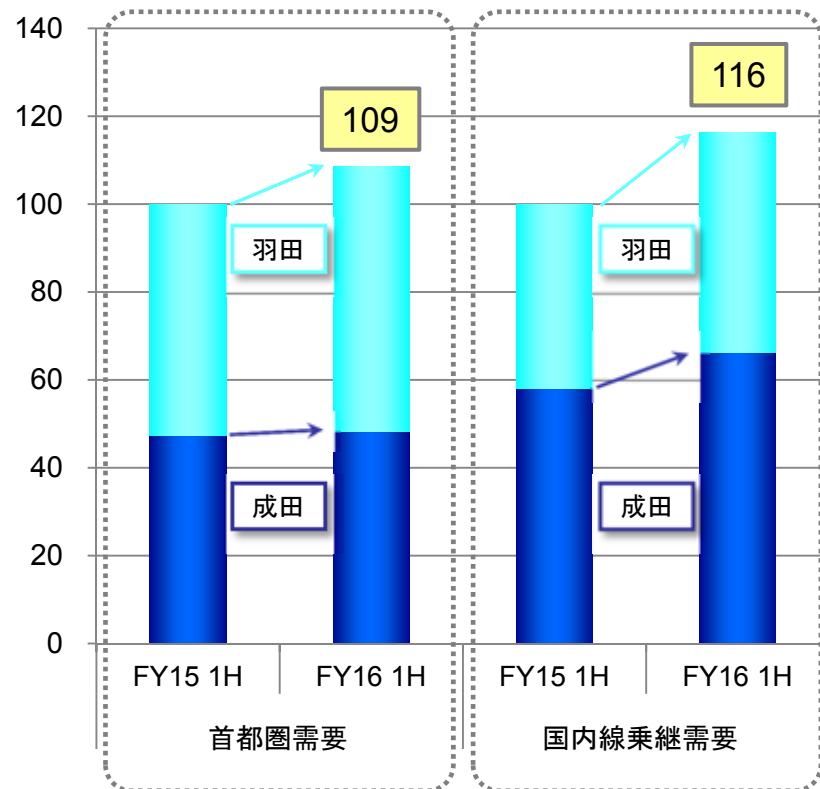
(バニラエア含まず)

デュアルハブネットワーク戦略の進捗(流動別旅客数の前年同期比較)

国内販売

✓国内発需要を幅広く取り込む
羽田が高い競争力を示す

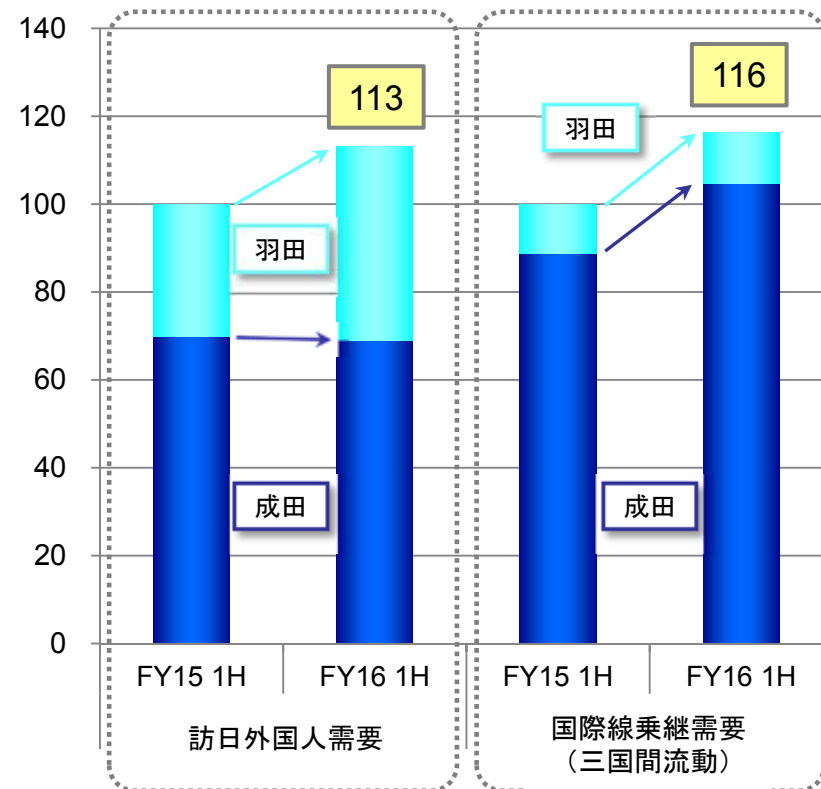
旅客数 指数
(FY15 1H=100)



海外販売

✓海外発需要は両空港で拡大
訪日需要は羽田、三国間需要は成田

旅客数 指数
(FY15 1H=100)



航空事業

国内貨物事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
有効貨物トンキロ(百万)	953	921	△3.4	497	△3.0
有償貨物トンキロ(百万)	230	225	△2.0	120	△3.3
貨物輸送重量(千トン)	228	222	△2.7	119	△4.0
貨物重量利用率(%)	24.1	24.5	+0.3*1	24.1	△0.1*1
貨物収入(億円)*2	155	150	△3.0 (△1.7)	79	△4.3 (△3.0)
ユニットレベニュー(円)*2 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.3	16.4	+0.4 (+1.7)	15.9	△1.4 (△0.1)
イールド(円)*2 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	67.5	66.9	△1.0 (+0.3)	66.1	△1.0 (+0.3)
重量単価(円/kg)*2 (貨物収入/貨物輸送重量)	68	68	△0.3 (+1.0)	67	△0.4 (+0.9)

*1 貨物重量利用率のみ前年差

*2 ()内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

航空事業

国際貨物事業(実績)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
有効貨物トンキロ(百万)	2,957	3,267	+10.5	1,654	+7.6
有償貨物トンキロ(百万)	1,702	1,999	+17.5	1,018	+16.6
貨物輸送重量(千トン)	396	457	+15.4	235	+15.3
貨物重量利用率(%)	57.5	61.2	+3.6*1	61.6	+4.7*1
貨物収入(億円)*2	583	418	△28.3 (△16.2)	213	△27.5 (△15.0)
ユニットレベニュー(円)*2 (貨物収入/有効貨物トンキロ)	19.7	12.8	△35.1 (△24.1)	12.9	△32.7 (△21.1)
イールド(円)*2 (貨物収入/有償貨物トンキロ)	34.3	20.9	△39.0 (△28.6)	21.0	△37.8 (△27.1)
重量単価(円/kg)*2 (貨物収入/貨物輸送重量)	147	92	△37.9 (△27.4)	91	△37.1 (△26.3)

*1 貨物重量利用率のみ前年差

*2 ()内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

航空事業

【参考】国際フライト(実績)

本表のデータは、P.24記載実績の内数

	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年比(%)	FY2016 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	625	627	+0.4	321	+2.4
有償貨物トンキロ(百万)	347	364	+4.7	187	+6.0
貨物輸送重量(千トン)	176	188	+6.8	98	+8.6
貨物重量利用率(%)	55.6	58.0	+2.4*	58.3	+2.0*
貨物収入(億円)	215	133	△38.2	63	△42.3
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	34.4	21.2	△38.4	19.8	△43.6
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	61.9	36.5	△41.0	33.9	△45.5
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	122	71	△42.1	65	△46.8

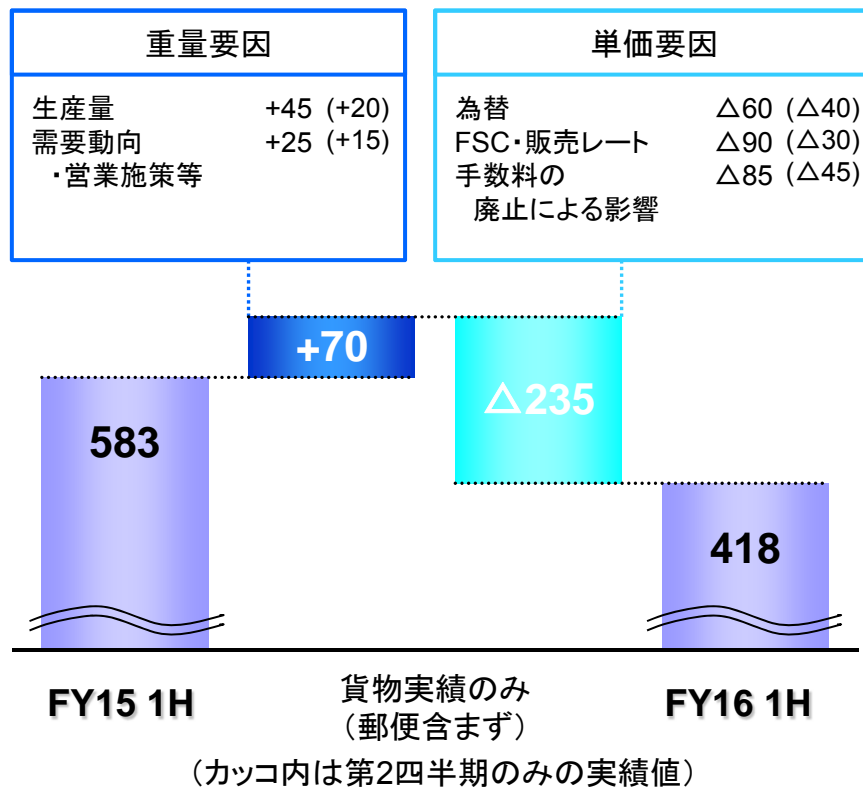
*貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業(事業動向)

第2四半期累計 収入増減要因

✓ 為替・FSC影響によって単価が低下

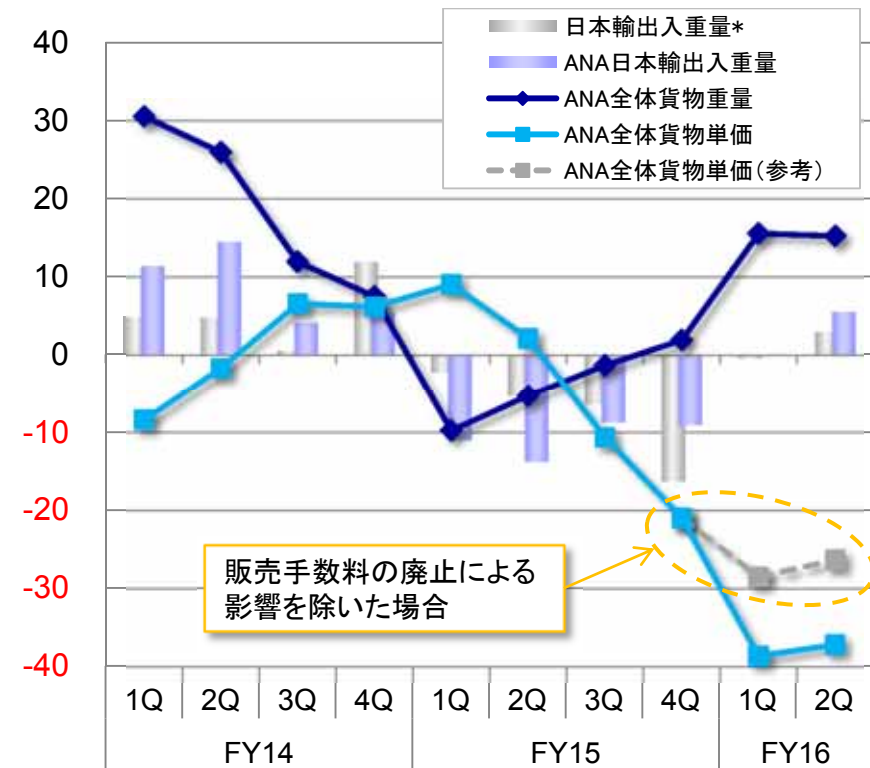


単位: 億円

四半期別 輸送実績・単価推移

(前年比: %)

* Japan Aircargo Forwarders Association



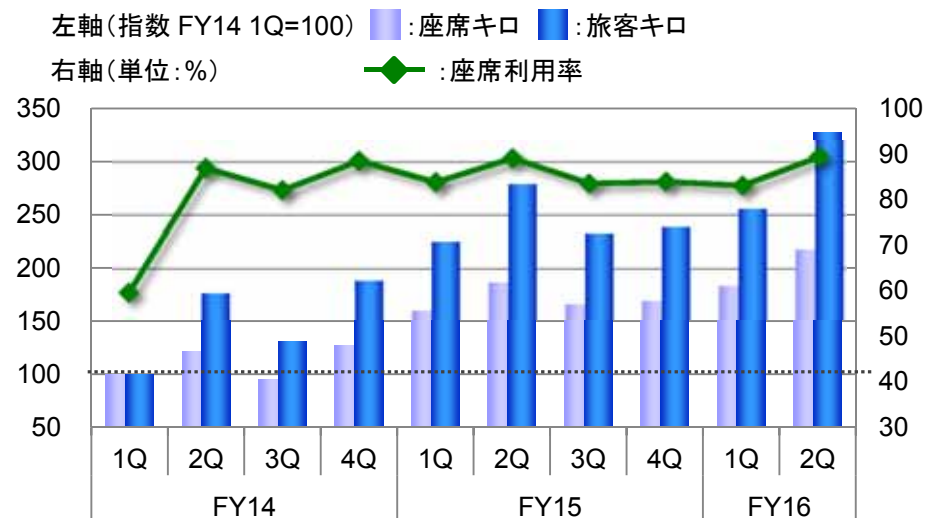
航空事業

LCC事業(バンニラエア)	FY2015	FY2016	前年比(%)	FY2016	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ(百万)	1,724	1,994	+15.6	1,082	+16.7
旅客キロ(百万)	1,495	1,726	+15.5	968	+17.1
旅客数(千人)	896	1,016	+13.3	569	+13.0
座席利用率(%)	86.7	86.6	△ 0.1*	89.5	+0.3*

国内線・国際線合計 * 座席利用率のみ前年差

運用航空機数
エアバスA320-200型機 : 9機
(2016年9月末 現在)

→ 成田ーセブ線 12/25 就航予定



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位: 億円

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
売上高	1,144	1,277	+132	884	824	△60
営業利益	42	53	+10	28	20	△8
減価償却費	26	25	△1	0	0	+0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	69	78	+9	28	20	△7
EBITDAマージン(%)	6.1	6.2	+0.1	3.2	2.5	△0.7

	商社事業			その他		
	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期累計	FY2016 第2四半期累計	前年差
売上高	715	689	△26	161	166	+5
営業利益	30	26	△4	6	7	+0
減価償却費	4	5	+0	0	0	△0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	35	31	△3	7	8	+0
EBITDAマージン(%)	4.9	4.6	△0.3	4.7	4.9	+0.2

・ 2016年度 業績予想(詳細)



2016年度 通期業績予想

連結業績予想

単位:億円	FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
売上高	17,911	17,400	△ 511	18,100
営業費用	16,547	15,950	△ 597	16,650
営業利益	1,364	1,450	+ 85	1,450
営業利益率(%)	7.6	8.3	+ 0.7	8.0
経常利益	1,307	1,300	△ 7	1,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	781	800	+ 18	800

【FY2016 市況前提(下期)】

	当初予想	修正予想
為替レート (円/US\$)	115	100
ドバイ原油 (US\$/bbl)	42	45
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	55	58

*2016年4月28日開示

2016年度 通期業績予想

セグメント別 業績予想

単位: 億円

		FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
売上高	航空事業	15,532	15,080	△ 452	15,600
	航空関連事業	2,319	2,620	+ 300	2,450
	旅行事業	1,673	1,570	△ 103	1,700
	商社事業	1,402	1,400	△ 2	1,550
	報告セグメント計	20,927	20,670	△ 257	21,300
	その他	337	330	△ 7	330
	調整額	△ 3,353	△ 3,600	△ 246	△ 3,530
	合計(連結)	17,911	17,400	△ 511	18,100
営業利益	航空事業	1,397	1,350	△ 47	1,335
	航空関連事業	△ 42	95	+ 137	85
	旅行事業	42	40	△ 2	50
	商社事業	53	50	△ 3	65
	報告セグメント計	1,451	1,535	+ 83	1,535
	その他	16	15	△ 1	15
	調整額	△ 103	△ 100	+ 3	△ 100
	合計(連結)	1,364	1,450	+ 85	1,450

2016年度 通期業績予想

航空事業 収入・費用予想

		単位：億円			
		FY2015	FY2016 (修正予想)	前年差	FY2016 (当初予想)*
売上高	国内線旅客	6,856	6,820	△ 36	6,870
	国際線旅客	5,156	4,970	△ 186	5,040
	貨物郵便	1,553	1,260	△ 293	1,640
	その他	1,965	2,030	+ 64	2,050
	合計	15,532	15,080	△ 452	15,600
営業費用	燃油費・燃料税	3,062	2,640	△ 422	2,695
	燃油費以外	11,072	11,090	+ 17	11,570
	合計	14,134	13,730	△ 404	14,265
営業利益	営業利益	1,397	1,350	△ 47	1,335

*2016年4月28日開示

2016年度 通期業績予想

計画前提（旅客事業）

（バニラエアを含まず）

数値は前年比表示

* 実数値・(前年差)表示

** 実数値・(前年比)表示

	国内旅客			国際旅客		
	上期実績	下期修正予想	通期修正予想	上期実績	下期修正予想	通期修正予想
座席キロ	△ 0.3	△ 2.3	△ 1.3	+ 11.9	+ 7.6	+ 9.7
旅客キロ	+ 0.5	+ 1.8	+ 1.1	+ 11.6	+ 9.2	+ 10.4
旅客数	△ 0.1	+ 1.6	+ 0.7	+ 10.3	+ 10.0	+ 10.1
座席利用率(%)*	64.6 (+ 0.5)	68.1 (+ 2.7)	66.3 (+ 1.6)	75.7 (△ 0.2)	73.9 (+ 1.1)	74.8 (+ 0.5)
ユニットレベニュー(円)** (旅客収入/座席キロ)	11.5 (△ 1.4)	11.8 (+ 3.0)	11.6 (+ 0.7)	8.8 (△ 10.8)	7.8 (△ 13.7)	8.3 (△ 12.1)
イールド(円)** (旅客収入/旅客キロ)	17.8 (△ 2.1)	17.3 (△ 1.1)	17.5 (△ 1.6)	11.6 (△ 10.6)	10.5 (△ 15.0)	11.1 (△ 12.7)
単価(円)** (旅客収入/旅客数)	16,146 (△ 1.5)	15,600 (△ 0.9)	15,873 (△ 1.2)	57,854 (△ 9.5)	52,646 (△ 15.6)	55,240 (△ 12.5)

2016年度 通期業績予想

計画前提（貨物事業）

数値は前年比表示

* 実数値・(前年差)表示

** 実数値・(前年比)表示

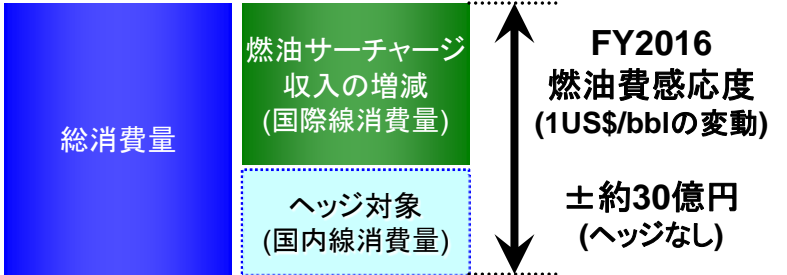
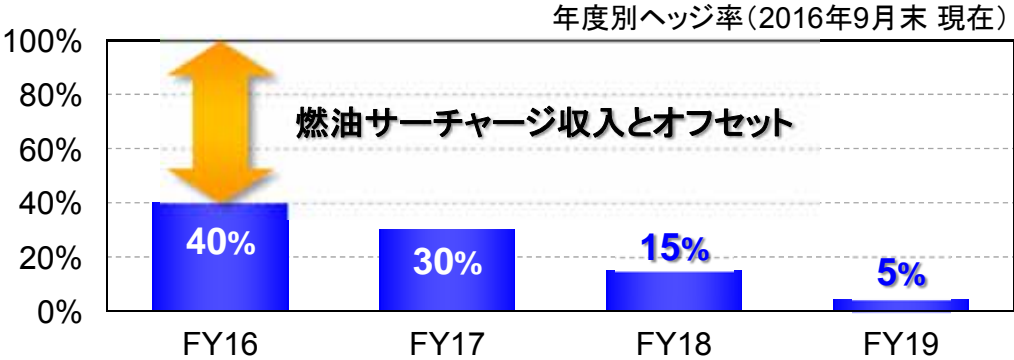
	国内貨物			国際貨物		
	上期実績	下期修正予想	通期修正予想	上期実績	下期修正予想	通期修正予想
有効貨物トンキロ	△ 3.4	△ 4.8	△ 4.0	+ 10.5	+ 6.7	+ 8.5
有償貨物トンキロ	△ 2.0	+ 0.1	△ 0.9	+ 17.5	+ 12.2	+ 14.7
貨物輸送重量	△ 2.7	+ 0.3	△ 1.2	+ 15.4	+ 8.7	+ 12.0
重量利用率(%)*	24.5 (+ 0.3)	28.4 (+ 1.4)	26.4 (+ 0.8)	61.2 (+ 3.6)	62.5 (+ 3.1)	61.8 (+ 3.3)
ユニットレベニュー(円)** (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.4 (+ 0.4)	19.3 (+ 7.1)	17.8 (+ 3.7)	12.8 (△ 35.1)	13.3 (△ 25.3)	13.1 (△ 30.4)
イールド(円)** (貨物収入/有償貨物トンキロ)	66.9 (△ 1.0)	68.1 (+ 1.9)	67.5 (+ 0.5)	20.9 (△ 39.0)	21.3 (△ 29.0)	21.1 (△ 34.1)
単価(円)** (貨物収入/貨物輸送重量)	68 (△ 0.3)	69 (+ 1.7)	68 (+ 0.7)	92 (△ 37.9)	97 (△ 26.7)	94 (△ 32.5)

燃油・為替ヘッジの進捗状況

【燃油ヘッジ 基本方針】

- ・国内線消費量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)
- ・国際線消費量は原則としてヘッジ対象外(燃油サーチャージ収入で対応)

(US\$/bbl)	上期 実績	下期 市況前提
ドバイ原油	43.2	45
シンガポールケロシン	54.4	58

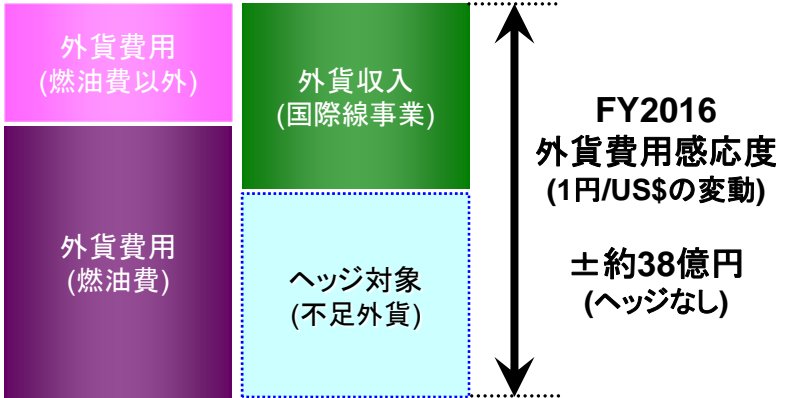
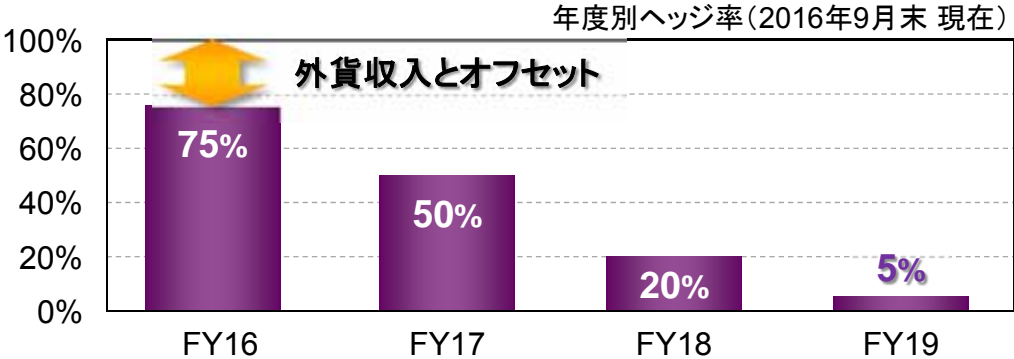


【為替ヘッジ 基本方針】

- ・不足する外貨量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)

(円/US\$)	上期 実績	下期 市況前提
ドル円レート	105.2	100

ヘッジ率は外貨費用(燃油費)に対する進捗



補足資料

運用航空機数	FY2015 期末	FY2016 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300ER	22	22	—	16	6
Boeing 777-300	7	7	—	7	—
Boeing 777-200ER	12	12	—	6	6
Boeing 777-200	16	14	△2	12	2
Boeing 787-9	11	16	+5	16	—
Boeing 787-8	35	36	+1	32	4
Boeing 767-300ER	25	25	—	13	12
Boeing 767-300	13	12	△1	12	—
Boeing 767-300F	4	4	—	—	4
Boeing 767-300BCF	8	8	—	8	—
Airbus A320-200	18	19	+1	10	9
Boeing 737-800	36	36	—	24	12
Boeing 737-700ER	2	0	△2	—	—
Boeing 737-700	7	7	—	7	—
Boeing 737-500	20	18	△2	18	—
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	—	19	2
合計	257	257	—	200	57

バニラエア運用 A320-200 を含む(当第2四半期末 9機、前年度期末 8機)
グループ外にリースしている機数を除く(当第2四半期末 17機、前年度期末 16機)

補足資料

国際旅客 方面別実績(構成比)		FY2016 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第2四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	32.0	△0.5	31.6	△1.2
	欧州	19.1	△0.5	19.3	△0.4
	中国	14.6	△2.2	15.2	△1.1
	アジア・オセアニア	29.2	+2.3	28.1	+2.0
	リゾート	5.1	+0.9	5.7	+0.7
座席キロ	北米	33.4	△2.9	33.0	△3.6
	欧州	16.3	△2.2	16.5	△1.3
	中国	12.0	+0.9	12.1	+1.4
	アジア・オセアニア	33.2	+3.5	33.2	+3.5
	リゾート	5.1	+0.6	5.1	+0.1
旅客キロ	北米	34.3	△1.5	34.1	△2.0
	欧州	16.2	△2.4	16.8	△2.1
	中国	10.5	△0.3	11.2	+0.8
	アジア・オセアニア	33.1	+3.6	32.0	+3.2
	リゾート	5.8	+0.7	5.9	+0.1

(バニラエア含まず)

補足資料

国際貨物 方面別実績(構成比)		FY2016 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第2四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	25.3	+1.1	27.8	+5.2
	欧州	14.9	+1.3	15.6	+2.0
	中国	30.4	△3.9	26.9	△9.2
	アジア・オセアニア	23.6	+1.7	23.5	+1.7
	その他	5.7	△0.2	6.2	+0.3
有効貨物 トンキロ	北米	36.5	△0.6	36.1	△2.3
	欧州	16.3	△1.8	16.3	△1.0
	中国	16.9	+0.1	17.3	+1.0
	アジア・オセアニア	26.6	+2.6	26.5	+2.4
	その他	3.7	△0.3	3.8	△0.1
有償貨物 トンキロ	北米	37.9	△1.3	37.9	△0.8
	欧州	20.7	△1.8	20.4	△1.9
	中国	13.9	+0.9	14.5	+1.0
	アジア・オセアニア	24.1	+3.0	23.7	+2.4
	その他	3.5	△0.8	3.5	△0.7

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

[日本語] 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

Eメール : ir@anahd.co.jp